

風

【男女共同参画標語】

最優秀賞

「それぞれの個性が活きる わが取手」 杉山かおり さん

優秀賞(5点中2点を紹介)

「子育ては 未来につづく 夢仕事」 平井 結衣 さん

「多様性 自分の個性 輝かせ」 宮本 侑輝 さん

変化するPTA!

～子どもたちが生き生きと
学び、育つ地域社会へ～

過半数が必要と回答

PTAに対して否定的な意見や問題が取り上げられがちですが、2021年12月に行われた東洋経済新報社の調査*では、保護者の61.5%、教員の54.2%がPTAを必要だと答えています。

PTAの良いところとして、親同士や学校との情報交換、交流に関する意見が多く挙がっていました。

全国のほとんどの学校にあるPTAは、保護者と学校が協力し、子どもたちの成長をサポートする大切な役割を果たしてきました。

ところが近年、加入の義務感や活動負担を疑問視する声が高まっています。

生活環境や意識の変化に合わせて、PTAのあり方や活動の見直しが求められている中、全国各地で始まっている「PTA改革」。取手市内の小中学校について取材しました。

やっぱり
PTAは必要



だけど、
活動は大変



<PTAの良いところ>

親同士の交流が持てる

情報交換ができる

学校の様子がわかる

<PTAで困ったこと>

選出が毎回大変

任意のところが強制

仕事を休んでまで参加するのが大変

大変な理由は?

一方、「必要」とした回答者からも、PTA活動のデメリットが挙げられていました。活動による拘束時間の多さ、役員選出や役務が慣例的であることに負担を感じている意見が目立ちました。(下園)

*出所:『東洋経済 education × ICT』2022/03/10 公開記事
保護者と教員1200人調査でわかった「PTAは必要?」
の超本音
<https://toyokeizai.net/articles/-/514198>

Interview

昨今、PTA役員の成り手不足解消や運営方法を見直して、試行錯誤しながら改革を進めている取手市PTA連絡協議会(市P連)の鈴木裕^{ひろし}会長(取手市立藤代南中学校PTA会長)を訪ね、その取り組み状況取材しました。



取手市PTA連絡協議会
鈴木 裕 会長
(藤代南中学校PTA会長)

取材を終えて

鈴木会長は、学校と保護者の橋渡し役として、PTA活動の全国大会や関東ブロック大会などにも積極的に参加され、より良い情報を入手し地域に導入を試みるなど、意欲的に取り組んでいます。子ども4人を育て、PTA活動歴11年、経験と熱意が感じられたインタビューでした。(糸井)

改革1. 任意加入を規約で規定

藤代南中のPTAは、本年度(2023年)から任意加入制にしました。

市内で任意加入を規定しているのは、藤代南中(退会申出方式)と桜が丘小(入会申出方式)の2校です。任意加入で重要なのは、子どもたちに差をつけないこと。会員と非会員の不公平感にも配慮しなければなりません。今後も任意加入についての問題は出てくるでしょう。

改革2. 委員会制から手上げ方式へ

(委員会制をやめ、)活動ごとに参加できる人に手を挙げてもらっています。活動希望一覧表をつくり、今のところ必要な人数は集まっています。委員会方式は決まった仕事以外に融通が利かないため、このやり方が合っているようです。委員会を廃止した学校は市内で3校あり、市P連の会議で委員会廃止について事例紹介しています。

改革3. 効率化と負担軽減

一般的に最も手間がかかるのは、印刷物です。藤代南中では、ペーパーレス化に取り組み、作業量が減りました。各家庭への連絡事項を印刷物で配布するのではなく、メール配信システムを使うことで省力化できます。しかし、まだ紙ベースの学校が多いのが現状です。

もう一つの負担軽減は、学校に集まる回数を減らすことです。共働き世帯が多いので、土日に集まればとも考えますが、教職員の働き方改革との関係もあり、今後の課題です。

改革4. 地域との連携

最近ではPTCAといって、C=地域住民(community)が加わった考え方が脚光を浴びています。地域一体で子どもたちの成長・見守りに参加して欲しいです。例えば、藤代南中では、外部講師となるゲストティーチャーを招き、特別授業をしたいと考えています。

今後の課題

現状ではPTAの活動が保護者に十分に伝わっていないと感じています。今年(2023年)から、市P連の活動を藤代南中のホームページだけでなく、市内各校のホームページに載せています。これをきっかけに各校のホームページにPTAの枠を作ってもらい、どんどん情報発信してもらいたい。学校の情報を知る手立てとして、PTAの本部役員になる人もいるくらいです。情報発信は重要な課題です。

市内小学校の取り組みをご紹介します

高井小 P T A 活動改革

Interview

高井小PTA
おおさく ちか
大作 千佳 会長
ともり
鈴木 智教 教頭先生

人々のライフスタイルが変化し、PTA 活動を取り巻く環境も考え方も変わってきています。特にコロナ禍で授業に支障をきたしたり、多くの学校行事が実施できなかつたりしました。そうした3年間は、PTA 活動や学校環境について考えるよい機会となりました。今回は取手市立高井小学校の PTA 活動改革の取り組みを紹介します。

以前の PTA 活動は

PTA 活動を実践する中で、旧役員から以下の問題点・疑問点が挙がりました。

- * 集まりへの出席の回数の多さ
- * 印刷や配布物準備の負担
- * 一人一役の半強制的活動参加
- * PTA 業務の複雑化 など

クラスの増加と共に各委員会の人数は増えましたが、個人への業務の偏りや手間が負担として浮かび上がりました。



PTA 活動業務改革

課題が多々ある中、昨年の役員が真っ先に行った取り組みは、半強制的になっていた一人一役のボランティア活動の廃止、会費の余剰分の返納、次年度役員数の削減、個人情報保護規約の制定でした。専門委員会の人数を17名から6名へと減少させ、活動内容見直し、個人への負担軽減、参加しやすい体制作りなどの改革をしました。会長職を引き継いだ大作さんは、「様々な改革が多くの保護者へ伝わり、共感が得られるよう引き続き取り組みたい。」と前向きに取り組んでいます。また、改革の実現にむけて、以下のような情報発信と呼びかけを行っています。



↑ 夏休み期間中の校内清掃にはたくさんの保護者・児童が参加しました ↓

- * YOUTUBE 動画「登下校改革について」の作成及び発信
- * おたよりの内容の充実
- * 「登下校に関する改革について」のアンケート及び「フィードバック」の実施 など



登下校改革

ゆめみ野地区では、近年学校周辺の宅地化が進み、若い世代が多くなり児童数が急増しています。令和5年度(2023年)の高井小のクラス数は19。全児童数600名、PTA 会員は456世帯です。周りに企業も多く交通量も増え、登下校時に危険な箇所がいくつかあります。しかし、ゆめみ野地区には自治会がないため、新取手自治会が中心となったスクールガードと共に通学路の立哨指導や見守りを行っています。高井小では、今まで「こども安全委員会」が作成した当番表をもとに全世帯参加の立哨下校指導をしてきましたが、スクールガードの高齢化に加え、保護者向けアンケートや通学路調査から色々な問題が出てきました。子どもたちの安全確保第一、そしてPTA 会員の平等で公平な活動を合理的に実行するために「高井小見守り隊」を立ち上げ、また、通学路の変更にも動き出しました。



これからの PTA 活動

大作会長は、「教職員の働き方改革や多様化する保護者の考え方への相互理解が大切。皆が自分のこととして取り組めるPTA を運営したい。」と語ります。教頭の鈴木先生は「PTA 会員の皆が意欲的に活動ができるよう教職員との連絡調整にあたりたい。」と呼びかけました。そして、大作会長と鈴木教頭先生は、PTA 活動改革の実現には保護者と教職員とのコミュニケーションがとても大切だと結びました。(河口・落合)

第25回

ひとひと 女と男ともに輝くとりでのつどい

～未来へ輝く取手人(びと)～

入場無料

11/12(日)

12時30分開場

福祉交流センター
(市役所敷地内)

- 取手で輝く人紹介
 - ・レディースフォーラムとりで
 - ・(一社)茨城南青年会議所
 - ・取手市女性消防分団
 - ・気功的ヨーガ・インストラクター 岸裏 典子氏 ほか
- 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校
 - ・吹奏楽部 演奏
 - ・取手ひまわりプロジェクト 商品販売
- 子どものための男女共同参画条例 展示
- ガールスカウトによるカフェコーナー
- 特製パン・野菜・干し芋販売、花鉢配布 ほか



取手市ホームページ

取材を終えて

地域や学校ごとに実情は異なります。結局のところ、PTA のあり方も、それぞれにあったスタイル、方法を見いだしていくことが必要なのかもしれません。ただ、共通して言えるのは、地域の協力と参加の重要性です。鈴木会長、大作会長、鈴木教頭先生はそれぞれの立場から、地域住民の協力を感謝すると共に、子どもたちの成長を見守る取組みに地域が積極的に参画することを希望していました。PTA の直面している問題は、決して親と学校だけの問題ではありません。子どもたちは、社会の宝であり、未来の希望です。子どもたちが安心して、のびのびと学び、育つ環境を作っていくために、地域で何ができるのかが問われています。今回の取材で、家庭、学校、そして地域が協力し、私たちの問題として関わり合っていくことが大切なのだと感じました。(下園)

編集後記

取手市に越えてきて初めての友達は同年代の子を持つママ友で、遊ばせながら情報交換や子育て相談をし、新しい土地に自然に慣れることができた。幼稚園・小学校時代はPTA 行事に子どもと共に参加することで友の輪が広がった。学齢が進むと子は親の手を離れ親の知らないコミュニティを作るが、その世界を垣間見られるのはPTA 役員の特典であり、親も貴重な体験をすることができた。働く親も参加できるPTA であるならばぜひ経験してほしい。同じ時間を共有したPTA 仲間は長く良い友達となる。(河口)

発行日 令和5年11月1日
編集発行 取手市 市民協働課 /
下園淳子 / 河口優子 / 落合伊佐男 / 糸井弘
〒302-8585 取手市寺田5139
TEL 0297-74-2141 / FAX 0297-73-5995
Email s-shien@city.toride.ibaraki.jp
https://www.city.toride.ibaraki.jp 表紙絵 有本 唯



「風」バックナンバー